

Oita Yufumi

VOL.21

Hospital

発行／令和6年5月

大分ゆふみ

病院だより

 大分ゆふみ病院



院長よりご挨拶

「ホスピス原点回帰」

一万田 正彦 《いちまた まさひこ》



新型コロナウイルス感染症の影響が徐々に薄れていき、皆さんはこれまでの日常生活を取り戻しつつあると思います。大分ゆふみ病院では、これまで行われていた患者さんへの面会制限を緩和して、静かで落ちついた環境の中、患者さんがご家族と共に穏やかな時間を過ごしていただけるように、配慮しています。

ところが新型コロナウイルス感染症の四年の間、入院すると家族に会えなくなるので、できる限り自宅で過ごしたい、という思いの方が増え、その結果余程体調が悪くならない限りは入院を控える方が増えてしまったように感じます。その影響はいまだに続いています。

2001年11月に当院は開院しましたが、開院当初の思いは、がん治療が困難になった方が、苦痛少なく穏やかに過ごせる場所を提供する事でした。体調が悪くなって慌てて入院する方だけではなく、いくらかココロとカラダに余裕をもって入院し、十分なホスピスケアを受けていただく事が、私たちの願いでありました。自宅と大きく変わらない環境を提供する事が私たちの役割だと考えています。

そこで今年は『ホスピス原点回帰』を目標とし、この四年間で失ったものを取り戻していきたいと思います。大分ゆふみ病院は、季節ごとに移り変わる庭の草木を眺め、心身の苦痛を和らげ、困難な状況でも患者さんやご家族が笑顔を見せていただける場所にしていきたいと思います。

時代が変わり、医療も進歩し、世の中の状況が変化していく中で、専門的緩和ケアの提供施設である大分ゆふみ病院は、がん患者とその家族の支えとなるべく日々精進を重ねております。そしてウィズコロナ・アフターコロナにおいて、これまで以上にホスピスケアを十分に行うことで、患者さんご家族にとって「ここに来て良かった」と言ってもらえるような病院を目指しています。

大分ゆふみ病院が、がんで苦しむ、患者さんやご家族の支えの一助となれば幸いです。



病室前

ご家族からの手紙

「癒しの時間をありがとうございました」

神田 あゆみ 《患者様のご家族》



月日が過ぎるのも早く、母が旅立って1年と4か月が過ぎました。今の母の姿は写真とスマホの中にあります。活動的な母だったので、いつもどこかで元気に過ごしているような気がしています。

母には持病がありましたが、いつも活動的に、日々を全力で楽しみ、自分のしたいことを病気に抗って、病院での抗がん剤治療には積極的に挑み、孫や家族と過ごす時間が少しでも長くなるように頑張っていました。コロナ禍ではありましたが、病気の発覚後も旅行に行ったり、お友達との交流を楽しんだりしていました。

抗がん剤治療の効果もむなしく、対処療法しかなくなった段階で医師から治療中の病院で過ごすか、転院してホスピスで過ごすかの選択を迫られました。最期を覚悟した母は家族と過ごす時間が少しでも長くなるように、大分ゆふみ病院を選びました。ゆふみ病院で過ごせた時間は10日間でしたが、入院したお部屋は明るく開放的で、外の植物がよく見えるお部屋で、モミジやクヌギの紅葉など母の目を楽しませてくれました。お庭はちょうどドングリが落ちる季節で、母は環境教育の活動をしていたので、孫が拾ってきたドングリを見て大変喜んだのを覚えています。

大分ゆふみ病院で過ごした時間は10日間と短かったですが、個室で家族と遠慮なく過ごすことができたり、夜も一緒に過ごすことができたり、密な時間を過ごすことができました。美味しいものを食べることが好きな母だったので、入院期間中には調理室をお借りし、職員の皆様方にはご迷惑をお掛けしましたが、母の食べたいものを温かい状態で食べさせてあげることができました。ありがとうございました。

母の最期を支えてくださった一万田先生や職員の皆さんには、母の身体がきつくなった時やトイレなどで看護師さんの助けが必要になったとき、笑顔で優しく接していただいたこと、家族が不安に思ったときに親身になってお話ができたこと、職員の皆さんが母や家族に対して優しく寄り添って頂いたことに大変感謝しております。

母が息を引き取った後も、母のお化粧や身支度を手際よくとても丁寧にしていただき、最期の瞬間まで母は素敵な母のまま見送ることができました。母に会いに来てくださった皆様は、母が今にも起き上がりそうだとおっしゃっていました。

大分ゆふみ病院で母と最期の時間を過ごせたことは、母にとっても私たち残された家族にとっても、とても充実した時間で後悔のない時間でした。ありがとうございました。

病院スタッフの皆様は、今も様々な感染症が流行しており、大変な日々をお過ごしのことと存じます。どうぞお身体ご自愛くださいますよう、皆様のご活躍をお祈りいたします。



四季折々

当院では、各月ごとにさまざまな季節の行事を行い、患者さんやご家族とともに季節を感じながら楽しい時間を過ごしています。



Oita
Yufumi
Hospital

春

Spring

暖かい日射しが心地いい春、訪れる人たちの気持ちを柔らかく包み、微笑みが広がる穏やかなひととき。



ひな人形と桃の花
春の到来を待っています



「たくさんの花が咲いてたよ！」
大好きな息子さんとお花見です



春うららか
卒業そして新たな門出の報告です

秋

Autumn

爽やかな風が通り抜けると中庭の木々が鮮やかに色づきます。皆を明るく包む、自然が広がります。



女性軍に囲まれて
賑やかな誕生日会になりました！



お月見うさぎ！
オカリナ演奏に合わせて美声♪を披露



幻想的な灯りを家族で楽しみました

夏

Summer

豊かな木々の葉が覆い茂る中庭は、たくさんの鳥も訪れる場所です。部屋からの眺めに心落ちつきます。



魚釣りで当たりが出た景品のうちわ
法被を着て楽しい夏祭りでした



浴衣を着て娘さんと一緒に
夏祭りを満喫しましたね！



中庭の散歩道

冬

Winter

クリスマスや節分などささやかなイベントは、寒さも忘れて楽しいひととき。皆で一緒に過ごします。

サンタさん、娘さんと一緒にメリークリスマス



♪福はうち♪
鬼は外♪みんなで力を合わせてエイエイオー



鬼退治、成功！！



ホスピスボランティア活動について

コロナ禍の影響で当院のホスピスボランティア活動は4年間、休止状態が続いています。ボランティアスタッフは、私たち職員と同じチームの一員であり、大切なケアの提供者です。ボランティアの役割の基本は「寄り添う」ことです。ボランティアがホスピスにいて安心して提供し、患者さんの日常生活を支え、社会の風を運び、開放的な空間を作り出す、とされています。

当院の面会制限の緩和に伴い、ホスピスボランティア活動の再開に向けて検討を進めています。喫茶や音楽演奏、趣味の活動など患者さんご家族に憩いの時間と癒しの空間を提供できるように努めます。



グリーンのエプロンを着用されている方がボランティアの方々

リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2024 大分について

リレー・フォー・ライフは、がん患者さんやそのご家族を支援し地域全体でがんに向き合い、がん制圧を目指すチャリティー活動です。1985年にアメリカで始まり、日本では2007年に東京で初めて開催されました。その後、全国に広がりを見せ、大分では2008年に活動が始まり、今年で17年目になります。大分ゆふみ病院は第1回目から毎年参加している数少ない病院の一つです。今年も9月22日から23日にかけて大分スポーツ公園大芝生広場で開催されます。



2024年大会は、9/22(日)～23(月・祝)に開催されます。

ホスピスセミナーについて

大分ゆふみ病院は毎年、ホスピス緩和ケアのことを知っていただくために、一般市民の方、医療関係者、福祉介護関係者を対象に「ゆふみホスピスセミナー」を開催していました。コロナ禍の影響で4年間、開催を休止していましたが、本年度から再開します。詳細はその都度、対象関係者にご案内します。



セミナーの様子

ホームページに『看護師ブログ』掲載中。ご覧ください！

大分ゆふみ病院

検索

■研修・施設見学受入れ状況 (2023.4.1～2024.3.31)

研修

看護学生研修他 53名(大分大学医学部 看護学科 ほか)

※新型コロナウイルス等の感染防止対策のため、実習の一部受入を制限しています。

施設見学

医師、看護師他 8名

※新型コロナウイルス等の感染防止対策のため、患者さん、ご家族以外の施設見学は一部受入を制限しています。

■ホスピス診療記録 (2023.4.1～2024.3.31)

■入院患者数

184名(男性87名、女性97名)

■平均年齢

74歳(男性74歳、女性73歳)

■住所分布

大分市126名、大分市外58名

(大分市外：別府市13名、由布市10名、臼杵市9名、津久見市6名ほか)
県内市町18名、県外2名)

■紹介元病院

大分大学医学部附属病院、大分県立病院、大分赤十字病院、大分三愛メディカルセンター、大分医療センター、やまおか在宅クリニック、別府医療センター、厚生連鶴見病院、九州大学病院別府病院、大分市医師会立アルメイダ病院、新別府病院、有田胃腸病院、臼杵市医師会立コスモス病院、うえお乳腺外科、けいわ緩和クリニック、みえ病院、大分循環器病院、織部病院、大分記念病院、明野中央病院、国立がん研究センター中央病院、ほか

入院までの流れ

①入院相談

電話で入院の相談を行った後、まず患者さんの容態など現状を伺います。また、入院相談外来や見学を希望の方は、来院日時のお約束をします。

②入院相談外来(医師による診察面談)

入院希望の方は、患者さんご本人またはご家族に対し、医師による診察と面談が行われます。また施設の見学もできます。※紹介状と検査データなどを持参していただきます。

③入院判定会議

医師、看護師長、医療ソーシャルワーカー(相談員)によって行われます。

④会議の入院決定の連絡

患者さんまたはご家族に入院の適否、日程について連絡をします。

⑤入院

相談員、または医師が患者さん、ご家族、紹介元病院と連絡を取り、入院の調整を行ないます。

病院理念

大分ゆふみ病院は『今を生きる』患者と家族を支えます。

1. 患者と家族の権利と尊厳を守る診療・看護を実践します。
2. 心身の不快な症状の緩和につとめ、最善のケアの提供を目指します。
3. 家族の不安や悲しみが和らぐように支えます。
4. さまざまな職種とボランティアがチームを組み、ケアにあたります。
5. 大分県の緩和ケアの発展に寄与します。

ご案内

入院をお考えであったり見学をご希望される方は、
必ず電話予約をお願いいたします。

※予約をされていないと相談が重なり、対応できない場合やお待ちいただく場合がございます。

■入院の対象となる方

- 医師が治癒が期待できないと判断した悪性腫瘍の患者を対象とします。
- 患者と家族が入院を希望していることが原則です。
- 入院予約時に「病名・病状」について理解していることが原則です。
- 社会的、経済的、宗教的な理由によりお断りすることはありません。

■がん疼痛緩和外来〔要予約〕

がんによる痛みやしびれなどでお困りの方、また、痛みにより眠れない方など、どなたでも外来受診に応じます。専門の緩和治療医が対応しますので、お気軽にご連絡ください。※要予約

■在宅を希望する方

ご自宅で生活を希望する方は、必要に応じて、訪問診療医、訪問看護、ヘルパーと連携いたします。

■講演依頼を承ります

緩和ケア・ホスピスについてわかりやすい内容で、講演活動を行っています。お気軽にご相談ください。

■ホスピスセミナーを開催しています

ホスピスケアをより多くの方に知っていただくために、ホスピスセミナーを春・秋の年2回、開催しています。詳細につきましては、ホームページをご覧ください。(http://oitayufumi.com)



まず、相談窓口へお電話ください。

☎097-548-7272

電話受付時間／月～金曜日 AM9:30～PM4:30(祝日は除く)

交通のご案内

- バスをご利用の場合
大分駅より大分交通<机張原>行き、
上金谷迫停留所下車。
- 車をご利用の場合
大分駅より車で15分、大分インターより車で5分